

第40回 日本国際保健医療学会学術学会：いたばしから世界へ—地域社会に根差したSDGs
日本学術会議 & 日本国際保健医療学会 合同特別 市民公開シンポジウム

Special Public Symposium by the Science Council of Japan
& the Japan Association for Global Health

プラネタリーヘルスの 視点で捉える気候変動と災害 コミュニティの役割と挑戦

Climate Change and Disasters through the Lens of Planetary Health:
The Role and Challenges of Local Communities

入場無料

気候変動をはじめ急激に変化している地球環境の中、私たちの健康を守るためには、コミュニティの在り方を見つめ直す必要があります。シンポジウムでは、地球規模課題にコミュニティがどのように備え・対応し・変革を進めるのか、プラネタリーヘルスの視点から多様な立場で議論します。

日時

2025

11/1土

13:00~15:00

プログラム

【挨拶】 冲永佳史 (帝京大学 学長)、光石 衛 (日本学術会議 会長)、
小林 潤 (日本国際保健医療学会 理事長)

【座長】 橋爪真弘* (東京大学)、鹿嶋小緒里* (広島大学)

【パネリスト】

- 1 ショウ ラジブ (慶應義塾大学)
レジリエントなコミュニティのためのサイロの打破：
温暖化が進む世界における地球の健康、気候適応、
リスクガバナンス
- 2 山内太郎* (北海道大学)
地域共創によるサニテーションの仕組みづくり：
プラネタリーヘルス時代のボトムアップ・アプローチ
- 3 神原咲子* (神戸市立看護大学)
プラネタリーヘルスからセルフケアと
プライマリヘルスケアを見直す災害看護
- 4 三井元子 (NPO法人あらかわ学会)
荒川流域における市民の活動

【指定発言】 中村安秀 (日本WHO協会)、森口育子 (兵庫県立大学)

【閉会挨拶】 中村桂子* (日本学術会議 環境リスク分科会 委員長)

* 日本学術会議連携会員

場所

帝京大学 板橋キャンパス
臨床大講堂 (東京都板橋区加賀2-11-1
本部棟2階)



市民公開シンポジウムのみ参加は無料

申し込みはこちら ▶▶▶

【6. 市民公開講座のみ】を選択し、メール
アドレス、氏名、所属名を入力してお申し込みください。

※学会の他プログラム参加には「学会参加登録費」が必要です。



【大会事務局】 帝京大学薬学部 環境衛生学研究室
〒173-0003 東京都板橋区加賀2-11-1

【学術大会運営事務局】 株式会社プライムインターナショナル内
〒141-0022 東京都品川区東五反田1-10-4 エムアイビル4F
Tel: 03-6277-0117 E-mail: 40jagh@pco-prime.com



学会HP

【主催】 日本学術会議 環境リスク分科会、
フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会、
防災減災学術連携委員会、日本国際保健医療学会、
帝京大学

【後援】 プラネタリーヘルスアライアンス日本ハブ

